

父が報いて下さる マタイ6:1~6、16~21 / 李正雨師

うちの長男が幼稚園に通っていた時、学んだ歌の中で「ご機嫌いかが」という歌がありました。誕生日の歌の替え歌です。「おはよう先生、ご機嫌いかが、おはよう皆さん、ご機嫌いかが。」私は日本語を学びながら「ご機嫌いかがですか」という挨拶があることが分かりましたが、この機嫌という言葉がどういう意味を持っているのかはよく分かりませんでした。それで辞書で探してみましたが、相手の気持ちや安否を尋ねるという意味の挨拶であるということが分かりました。この挨拶の意味についてよく分からない時は、ただの挨拶の一つだと思っていましたが、調べてみると、私たちの社会にとっても適した挨拶だと思いました。私たちは、一人ではなく共同体と社会をなして生きるからです。相手の気持ちや安否を尋ねて答えることによって、私たちは交わることができ、協力することもできます。助けたり、助けを受けたりすることもできます。一人ではないという安定感も得ることができ、それで、お互いのことをうかがうこの挨拶は、本当に良い挨拶だと思います。

ところが、今日の福音書では、この機嫌をうかがうこととは、少し違う言葉が書かれています。相手が自分の安否を尋ねても知らないようにすること、つまり人目につかないようにすることについての言葉です。イエス様は、私たちが人目につかないようにする3つのことについて言われます。施しと祈りと断食です。この3つのことは、私たちが人目につかないようにすることとして、人々に自慢したり見せようとしたりしてはならないものです。今日の福音書2節、5節、16節には、これについて書いてあります。

2節「あなたは施しをするときには、偽善者たちが人からほめられようと会堂や街角でするように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない。はっきりあなたがたに言うておく。彼らは既に報いを受けている。」

5節「祈るときにも、あなたがたは偽善者のようであってはならない。偽善者たちは、人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈りたがる。はっきり言うておく。彼らは既に報いを受けている。」

16節「断食するときには、あなたがたは偽善者のように沈んだ顔つきをしてはならない。偽善者は、断食しているのを人に見てもらおうと、顔を見苦しくする。はっきり言うておく。彼らは既に報いを受けている。」

この言葉の中で繰り返される言葉があります。「人に見てもらおうと」と「彼らは既に報いを受けている」という言葉です。なぜイエス様は、これらのことを人々に見てもらおうとしてはならない、人目につかないようにしなさいと言われたのでしょうか。信仰を自分の誇りにしようと思ったからでしょう。信仰を通して自分の正しさを示そうとしたからでしょう。信仰を利用して自分が尊敬を受けようと謀ったからでしょう。私は、信仰というものは、自分と神様の関係を指すことだと思います。誰かに自慢することでも、信仰を利用して何かを図ることもありません。神様を自分の神様として認め、従うこと、神の子になること。これが信仰のすべてだと思います。だから神様は、信仰に関わるもの、善い行いを人目につかないようにしなさいと言われたのです。信仰は他の人と関係しているものではないため、自分と神様との関係であるため、イエス様は私たちの善い行いが人目から隠れたところで行われることを願っておられるのです。そして神様は、この関係の中で報いてくださると言われます。ただ神様のみを望み、神様の言葉に従おうと思ったからです。他のことを図ることも、自分の優越や他人の尊敬も求めなかったからです。

イエス様の時代だけでなく、今の時代でも見られる善い行い、または他人に見せるための善い行いをする人々がいます。私が誰だと言わなくても、皆様はこのような人々についてよく知っておられると思います。このような人々にイエス様は「彼らは既に報いを受けている」と言われます。自分の誇りを通して、他人に見られることを通して、彼らは、自分たちが謀った目的を果たしたからです。しかし信仰は、信仰による善

い行いは、こんな目的を持って行うことではありません。神様の言葉なのです。私たちの信仰が導いているので行うことだけです。イエス様は、19節で「あなたがたは地上に富を積んではならない」と言われます。そして20節で「富は、天に積みなさい」と言われます。これは、私たちの信仰と善い行いの目的は、自分のためのこと、何かを謀ったことになってはならないということを教えてくれるのです。自分の正しさを示すために、小さな善い行いを誇るために、富を地上に積んではいけません。皆様の善い行いを他の人が知らないようにしてください。これが今日、灰の水曜日に私たちに与えられたイエス様の御言葉です。

今日の礼拝の目的は、私たち皆は死ぬということを悟ることにあります。死を悟るために集まったこの場で、イエス様は、私たちの善い行いを人目につかないようにすること、神様だけを望み、善を行うことを言われます。私たちが死を迎える時、神様の言葉に従って善を行った人々には、神様の報いが与えられるのです。そしてその時、4節、6節、18節に書かれている「父が報いて下さる」という言葉が何の意味か、私たちは明らかに分かるようになります。人目につかないように、神様だけがご存知のようになしてください。皆様の富をこの世ではなく、天に積み重ねてください。神様は皆様に必ず報いてくださいます。私たちの善い行いが人々に隠されますように。自分の栄光ではなく、神様の栄光だけが現れますように、主の御名によって祈ります。アーメン